

FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040

会長：柳原寿男 副会長：鈴木廣利
幹事：宮川邦光 副幹事：松葉隆夫



2004-2005年度
RIテーマ

ロータリーを 祝おう

100年の歩み

グレンE.エステス・シニア



てんぐ祭り

[写真提供：櫻井龍太君]

第1602回

<ソング> 我等の生業
<ソングリーダー> 青島 克郎君

CELEBRATE
ROTARY



会長挨拶

柳原 寿男君

12月は「家族月間」です。もともと10年程前から、2月第2週を「家族月間」としていましたが、2003～04年度ジョナサン B. マジニアベRI会長の時に、12月を「家族月間」としました。

家族というと一般的には両親、配偶者、子供、孫を思い浮かべますが、「ロータリー家族」は範囲を拡げて、自分のクラブ会員、元会員を含めて全てのロータリアンと配偶者、ロータリーアクター、インターアクター、青少年交換学生、RI財団国際親善奨学生などロータリーにかかわりのある人々を、家族という概念に包括しています。

尚、グレンE・エステス・シニアRI会長は、今年度の強調すべき四つの奉仕分野として、保健問題、識字率の向上、水管理と共に「ロータリー家族」をとりあげられ、退会防止のための主要な活動と位置づけております。

私共のクラブでは関連する行事に、8月1日納涼例会としてSL特急で千頭へ、トロッコ電車に乗り換えて長島ダムへ出かけました。今月22日のクリスマス家族会は、片岡親睦委員長が今までにないエンターテイメントを企画しています。又、来年2月23日は、100周年記念事業の一つとして、藤枝南RCと合同の夫人同伴夜間例会を予定しています。3月にも南RCと一緒に、ボーリング家族大会を望月プログラム委員長にお願いしております。

さて先週は、1600回例会皆出席を称えて、

宮崎啓之進先生をクラブとして表彰いたしました。その夜の祝賀会で先生は、長期間の皆出席は、健康に恵まれたことと、家族の理解によるものであると言われております。改めて「健康」と「家族」を痛感する次第です。

12月に入って、さすがに冷え込みの厳しさを感じます。寒冷と乾燥は、ウイルスにとっては活動し易い条件となります。風邪の原因の殆どがウイルスに起因しています。(一部細菌が関与)特に悪寒、高熱、筋肉痛、関節痛で突発するインフルエンザは、小児には脳炎、脳症の合併を、高齢者には肺炎から時には死への転帰をもたらす悪性の病気です。まずは予防のためワクチン接種と普段の生活では、帰宅時のうがいと手洗いを実行しましょう。ちなみにワクチン接種料は、高齢者(65才以上)で自己負担1,050円です。

理事会報告 副幹事 松葉 隆夫君

- 12月、1月のプログラムが承認されました。
- 次年度役員理事が承認されました。(会報に掲載します)
- クリスマス夜間例会及び新年賀詞交歓会が承認されました。
- 国際ロータリー創立100周年記念事業に関して藤枝クラブとして「富士山の環境を考える」のステッカー作成する案が承認されました。(見積を取ることに配布先等検討する)
- 栗原増強委員長より今後の増強についての報告が承認されました。

(テーブルメイトを開催する)

- 1月の理事会が平成17年1月12日17時より開催承認されました。

幹事報告 副幹事 松葉 隆夫君

- 国際ロータリー第2620地区ロータリー・オイスカ共同事業から「地球環境再生植林フォーラム2004」が届いております。

出席報告 松葉 隆夫君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
24 / 41 58.54%	32 / 41 78.05%

(1)欠席者(事前連絡とメーカーキャップをどうぞ)

- 石垣君 ○岩崎君 ○岩田君 ○後藤君
- 桜井富君 ○仲田廣君 ○成瀬君 ○宮川君
- 山田君 ○鈴木廣君 青島彰君 浅川君
- 板倉君 鈴木舜君 仲田晃君 村松英君
- 望月志君

ビジター

澤脇 圭司君(島田)

米山委員会卓話

米山奨学生
陳 欽文君
(台湾 県立大学)



生年月日：昭和48年7月6日 (31歳)

住 所：静岡市谷田47-20-206

<自己紹介>

私は陳欽文と申します。台湾高雄出身です。父は鉄鋼会社に勤務し、母は一般的な主婦です。父母の現代的教育によって私は積極的な人生観を持つことができました。また、学校での規則的な生活から誠実さ、独立心、知識、責任感を学びました。

五専時代専攻は工業経営です。その頃から日本と台湾との経済関係が深まり、貿易額も増してき

ています。このようなことを認識していく内に、日本に益々興味が湧いてきました。

五専卒業後、銘伝大学商学部の企業経営学科と観光事業学科と同時編入しました。その時、経営学にとっても興味を持ち、特に経営実務ゼミは企業の抱える問題点を研究して、いろいろな解決方法を模索していきました。大学生活は人間関係を広める為にも良い経験となりました。責任感ある性格のおかげで多くの人達に信頼されました。

台湾では兵役がありますので、卒業後2年間兵役に就きました。また、企業にも勤務し実務経験を積みました。この実務経験が大学院に入学するために貴重な経験になると考えます。その後、1999年11月から2001年4月まで遠東航空に務めました。業務内容は空港地上勤務でした。さらに、企業本部の営業部門の企画業務に移り、企画での1年間はいろいろな面で勉強となりました。その間上司からも信頼され、責任ある役割を果たしてきたと自負しております。2001年4月から、管理知識の更なる学習に専念するため遠東航空を退社し、来日しました。

<卓話>

皆さん、こんにちは。私は2001年4月に来日し、沖縄、神戸、静岡と移り住み、今は静岡県立大学大学院に在学しており、今年の四月にロータリークラブに選ばれ、現在は焼津南ロータリークラブにお世話になっております。今日は藤枝南ロータリークラブに招いていただき感謝しています。私の日本語はまだまだ不慣れですので、お聞き辛いかもしれませんが、皆様の貴重なお時間をお借りして、少し私の話を聞いていただきたいと思います。

今日は「きれいとは何か」というテーマについて話をしたいと思います。

まずはじめに、自分が日本に来てから、アルバイトをしながらいろいろと感じてきた「きれい」に関する体験談、感想を述べたいと思います。きれいな景色を見たり、絵や写真を見たりすると、心がきれいになるような気がします。それが人で

あっても、きれいな人を見れば、自分も感動します。心も綺麗になります。

でも人が綺麗というのは人によって基準が違います。綺麗というコトバがなぜこんな魔力があるのが、私自身、なかなか理解できません。私は辞書を開いて「綺麗」という言葉を調べてみると、ただ「美しい様子」と書いてありました。でも、それだけでは本当の意味はわかりません。人間にとって、あるいは私にとって「綺麗」とは、何なのか、考えてみました。

私も、心をもっとすっきり綺麗になれるように、綺麗なものをたくさん見るために日本に留学しました。まず一番初めに留学した沖縄では、来日した翌日にはすぐに海を見に行きました。沖縄の海は綺麗です。空も青くて曇りも全然ありません、本当に綺麗です。その時は五月でしたが、海岸にはたくさんの方がいました。その人達の中におかしな若者がいると思いました。私は見たのは三、四人の若い女性達です。顔から手、足まで真っ黒で特に顔は茶色のファンデーションを塗って化粧して、目の周りは銀色で線が描いてありました、その女性達を見ていると、中国のパンダを思いかべました。とても綺麗という表現はできませんでした。

私は居酒屋でアルバイトをした時、そこで理恵ちゃんという高校生と知り合いました。理恵ちゃんは高校二年生、17歳ですが、ボーイフレンドが何名かいました。理恵ちゃんはスーパーモデルなどと皆に言われました。ある日、理恵ちゃんが自分の秘密を私に話してくれました。「陳さん、実は私は以前太っていました。でも、何度もエステに行ってから、痩せてきましたよ。」とっていました。

「エステって何？」私は聞きました。「陳さんエステも知らん！エステは顔とか体の美容マッサージとか、脱毛するところよ。私はエステに行って一回一万円以上かかるのよ。それから、オイルや泥で強くもんだり、汗を出すために、シートで体をぐるぐるまかれた。苦しかったね！でも綺麗になる

ためには少し位のがまんはしないと・・・」と言いました。

私は聞いてびっくりしました。綺麗になるためにかなり痛くても、耐えています。「陳さん、浜崎あゆみは可愛いでしょう。あんなに小さい顔になりたいね。今度は貯金してから、小顔（こがお）手術を受けたようかな。」といました。

私は「理恵ちゃんは綺麗だよ、手術を受けなくてもいいんだよ。そんな必要はない。」といました。顔の大きさは、大体骨の大きさで決まっています。努力で顔を小さくしようというのは、そもそも無理な話しじゃないですか。

私は沖縄にいた一年間、日本語学校で勉強しました。日本語学校には唯一、一人の男の先生がいました。その人の手の毛、足の毛は全然ありませんでした。さらに鼻のわきの黒ずみもありません、顔もつるつるしている。「何でかな？」と思い、ある日、先生に思い切って聞きました。先生は「私は脱毛していました、メイクもします。」と。先生は嬉しそうに答えてくれました。ちょっとびっくりしましたが、先生を見て、綺麗という言葉にとらわれているのは、若い女性ばかりではないことがわかりました。若い男性の間も化粧品を使う人が多くなってきています。若い男性が綺麗にする目的はこれまではほとんどが女性のためではなく、あくまで自分のためにメイクするようです。彼らは、自分の顔が綺麗になっていくことが嬉しいというのです。日本の若者の間では、今までは男女を問わず「綺麗」が一番大切な基準になってきています。

お正月に、私は初詣に神社へ行きました。神社の前で、2、3名のおばさんたちが障害のある子供をつれていました。障害のある子供は話せなく、歩けないですから、おばさん達が手ぶり、身振りで、しかもずっと笑顔で丁寧に教えていました。子供達に分かるまで。おばさん達の笑顔を見ながら、子供達も喜んでいる様子を見て、私は感動させられました。おばさん達は美人ではなくて、顔にしわがあっても、その笑顔は綺麗です。いまで

も、まだ私の心の中に残っています。

綺麗になりたい、それは理想の自分になりたいということです。理想の自分になりたいという気持ちは誰でももっています。

私は、理恵ちゃんも、先生も、おばさん達も、綺麗と思っています。だけど、理恵ちゃんと先生ことは忘れてしまうかもしれません。しかし、おばさん達は心から優しく、私はあの綺麗な笑顔が忘れられません。

きれいとは何だろう？

それが単に顔の美しさだけを表してはいません。

心の美しさが一番です。

これが、私が日本に来てから感じた「きれい」に関する体験です。

「心の美しさ」のことを言えば、私はひとつ思いつく小説があります。皆さんは、「白い犬とワルツ」という本をご存知でしょうか？ベストセラーにもなり、確か映画化もされたと思います。

ここで簡単にそれを紹介させていただきます。それは、ある一人の老人の物語です。長い間一緒に暮らしてきた妻に先立たれた悲しみの中、その老人はいつしか白い犬を見るようになります。この犬はほかの人からは見えない犬です。この犬の存在や、面倒を見るために戻ってきてくれた息子たちによってこの老人は癒され、いつしか妻を亡くした悲しみから立ち直ってきました。しかし、この老人も次第に癌におかされ身体が弱ってきたとき、白い犬の姿はなくなってきました。老人は死ぬ間際、自分達の息子にこう言います。あの白い犬はお前達を見守るためにお母さんが戻ってきてくれた姿だ。でも、今はもうお前達が俺の前に戻ってきてくれたのだから、心配いらない。だからあの犬はいなくなってしまったんだ。

そう言って老人は幸せそうに亡くなっていきました。

私は、この老人の心の美しさに感動しました。小説を読み終わって、あの犬は五十年以上も続いた結婚生活の化身だと分かりました。主人公が子供に尋ねるように、作者は読者に「あなたには「白

い犬」が見えますか。見えるような生涯を送ってきましたか。」と問いかけているんだということに気づきました。

この小説に感動させられたのは、ただ亡き妻のことを悲しむだけではなく、主人公の後悔のない一生です。そこで私は考えました。われわれに、今一番大切なものとは一体何か。皆さんは考えてみたことがありますか。一番大切なものは多分遠くない身近にあるかもしれないのですが、ただまだ気が付かないだけではないでしょうか。

私も今一番大切なものは何かということに、気が付きませんでした。ずっと留學生活に憧れていた私は家族や友人の意見を無視して、一生懸命留學する夢を追い掛けていました。そうして実現することになりました。でも、日本へ来る当日に空港に家族や友人が見送りに来てくれ、初めて私のために涙を流してくれました。その時自分のわがままが恥ずかしくなりました。そして、自分にとって一番大切なものに初めて気が付いたのです。

貪欲な人間は現状に満足せずいつでも欲しいものを追い掛け続けて、元々持っていた宝物まで失ってしまうことがよくあります。気が付いた時にはもう、間に合わないかもしれません。

「幸せの青い鳥」はあなたのすぐ身近にも必ずあるはず。いまのうちに、人生に悔いが残らないように、積極的に生きていった方がいいと思います。しかし一番大切なものは何かということも考えて下さい。手遅れにならないうちに、きれいな心を持ち続けながら自分の「白い犬」を探してみてください。

私はごく普通の一人の外国人で立派な話もいえないし、偉い行動もできません、ただ私自身のよい思い出、楽しい経験を皆さんにお話できたらと思っています。以上、私の話を聞いていただきまして、ありがとうございます。

(担当/池ノ谷)